

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	270202138
法人名	株式会社三輪商事
事業所名	グループホーム薫風舎
所在地 (電話番号)	〒036-8071 青森県弘前市大久保西田105-42 (電話) 0172-37-8800

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 14日	評価確定日	平成 20年 3月 6日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.47人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000~冬季21,900 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
または1日当たり 1,050円			

(4) 利用者の概要(10月 25日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子内科クリニック・波多野歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校の目の前の住宅街という立地条件を生かし、児童や同町内会住民との相互交流が盛んである。入居者も元気な方が多くおられ、日課においても自分の役割意識を持ち、個々の入居者がとても意欲的に活動されている。系列事業所が調剤薬局ということもあり、薬剤管理は徹底されており、職員への薬剤に関する各種研修会を頻繁に実施するなど利点が生かされている。管理者はどのようなささいな意見でも逃さないように気を配り、小さなことから自分たちのケアを見直していこうと努力するとともにアロマテラピーマッサージをとりいれるなど新しい感覚を現場に取り入れ、よりよいケアについて考え実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の周知ということがあげられていたがホーム便りに理念をのせ、家族だけでなく、福祉・行政機関への送付、町会にて回覧していただくなど行われている。また、食事のカロリー把握については調理後の献立について栄養士に依頼し、栄養状態を把握していくことを検討しているが現段階では行われていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で自己評価を実施し、項目の内容について一つひとつ話し合いが行われ、中身を共有し現在のケアサービスに生かされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催され、入居者の現況報告にはじまり、消防関係、町会行事への小学校の協力についてなど毎回異なるテーマで話し合われている。参加メンバーも活発に発言を行っており、この会議を契機にお互いの行事への参加が行われるなど交流が盛んになってきている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の意見を吸い上げられるよう面会時や月便りを通して事業者側から積極的に家族に情報提供している。管理者も小さな苦情処理から自事業所のケアの改善が図られるとの考えから多少の意見をも苦情として受け、職員全体で話し合う機会をもうけ、ケアサービスに反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅街、小学校の目の前という立地条件を生かし、地域住民との交流を盛んに行っている。小学校の児童が学校帰りに立ち寄り、小学校行事に参加したり、近所の方々と共に事業所のバーベキューを実施したりと相互交流が活発に行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に自分たちの目指すグループホームについて考え、職員全員で作り上げた理念を掲げている。		実践において、地域との関係性に重点をおき、管理者はじめ、職員も理解されているが明記されていない。更に地域の方々にアピールしていく上でも追記していくことを希望します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーションに始まり、理念の中身を具体的にスタッフ全員で共有するために毎朝の申し送り時、ミーティング時と話し合わせ、いつでも職員自身が確認できるよう名札の裏に記入するなど工夫され、日々のケアに実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	住宅地、小学校の目の前という立地条件が生かされ、地域の方々がいつでも出入りできる環境が整っている。小学校や保育園との交流も年中あり、児童が学校帰りなどにも立ち寄ってくれている。地域の方々にも町内会を通して、お互いの行事への参加を行い、交流を深めている。		日常的な交流が来ているが更にグループホームとして持っている専門性を地域に還元するべく努力を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価の結果を受けて改善計画に取り組むとともに今年度も自己評価をもとに職員全員で話し合いが行われ、見直しが行われている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご本人、町内会、ご家族、行政、小学校教師など多彩なメンバーがそろい、二ヶ月に一回開催されている。中身も毎回異なるテーマ設定を行い、活発に議論されている。この機会を契機に小学校や町内会との新たな交流が生まれるようになってきている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加や他にも管理者が頻繁に市役所に足を運び、担当者との話し合いが行われている。</p>		<p>今後も現在の関係性を持続し、更に共有できる機会を確保していくことが期待されます。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に地域福祉権利擁護事業を利用している入居者がいるため、実際の業務を通じて職員も理解している。そのほか、ミーティングなどで権利擁護についての理解を促している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング時やOJTを通じて職員内で虐待について学び、虐待が起こらないよう実践している。また、職員のメンタルヘルスにも留意し、ストレスの軽減が図れるよう働きかけがなされている。</p>		<p>虐待の範囲が広く、事業所内でも理解が難しいためマニュアルを作成するなどして、職員全員での理解を深めることを期待します。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の前段階において、丁寧に面談を行い、ご本人が納得した上でサービスの契約を行っている。契約後もいつでも入居者、家族がサービス内容について疑問点を相談できるよう、職員側から働きかけを密にしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族へは近況報告の手紙や金銭出納帳の写しを送付するとともに、面会時には必ず家族に入居者の状況を説明し、話し合いが行われている。</p>		<p>金銭出納帳を毎月、送っているがそれについてご家族から確認のサインをもらうなど書類として家族の確認を得ることを期待します。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や折に触れ電話をし、不満等を話せるように信頼関係づくりに重点をおいている。また、玄関に意見箱を設置するなど口頭で言いづらい意見の吸い上げにも工夫している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はないが、やむを得ず離職する際には入居者に説明を行い納得していただくとともに新職員が入職時には入居者への影響が最小限になるよう教育を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画をもとに各種研修が実施されている。内部研修では定期的に母体事業所である薬剤師による薬の知識等の研修を組み入れるなど事業所の利点が生かされている。また、外部研修にも職員が参加できるように機会を確保し、研修終了後も職員間で内容を確認し、共有されている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国・県のグループホーム協会に所属し、研修等を通じて知り合った他グループホーム職員との交流の中で、お互いに情報交換を行ったり、相互訪問を行ったりとネットワークづくりがおこなわれている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始前に自宅を訪問し、職員と信頼関係が築けるよう働きかけを行うと共に、本人、家族にホーム見学をすすめ、実際にどのようなサービスが受けられるのか、他入居者はどのような生活をしているのかを確認していただいている。その後、本人・家族が入居に関して納得した上でサービスの利用が開始されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>事業所の理念にもあるように職員と入居者は「家族」のような関係を目指し、人生の大先輩として敬意を忘れずに日々楽しい生活になるようなケアを心がけている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにはセンター方式を活用し、入居時以前のことをよりよく知るために家族の方に生活歴等を記入してもらい、入居してからも現状についての情報収集を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を用い、入居者・ご家族よりニーズを把握すると共に日々のケアの中から職員が気づいた点をケアカンファレンス等を用いて、話し合いがなされている。また、本人・ご家族・職員・看護師などのメンバーでサービス担当者会議を開催し、ケアの方向性について議論された上で介護計画が作成されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは毎日実施し個別に記録され、入居者の状態変化に逐次対応できるよう介護計画を見直し、ケアに反映させている。また、入居者の心身の状態に変化がない場合でも定期的にアセスメントを実施し、介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>希望に応じて受診に応じたり、家族の方が面会時、入居者の部屋に宿泊できる体制を確保している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意向を大切に、かかりつけ医、希望する医療機関を入居時に把握し、適切な医療が受けられるよう柔軟に対応されている。また、ホーム協力医が往診に来て頂けるというメリットを生かし、日々、安定的に健康管理が実施されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者への対応ができるよう指針をもうけると共に、日々変わる入居者やご家族の心身の状態変化に合わせ、定期的に医療関係者、家族等を交え、話し合いの機会が持たれ検討が行われ、今後の方向性について関係者間での共有が行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の大先輩であるという尊敬の念を職員全員が持てるよう、日頃から研修等を通じて学ぶ機会を設けたり、管理者が随時職員に意識付けを行ったりしている。こうした方針は、入居者の耳元でそっと話をする姿がみられるなど職員にも浸透している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりに合わせたものではなく、入居者の今までの生活や意向に合わせた日課を行っている。時間に縛られることなく、散歩や入浴など入居者が思いおもいに行えるように支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで入居者、職員一緒になってそれぞれが役割を持ち、出来ることを行っている。入居者が食べたいものを食べられるよう献立を考え、作っている。職員一緒に食事を行い、食卓は笑い声が絶えず、楽しい雰囲気を意識的に創りだしている。外食も積極的に行い、入居者の食事意欲を高める工夫がされている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の健康状態を確認しながら、時間帯に関係なくいつでも入りたいときに入れるように工夫されている。また、本人の意思を尊重、心身の状況を勘案し、入浴にもあまり手をかけすぎないようにし、その間に確認や声かけを行うなど主体性を損なわないような取り組みを実施している。		今後は重度化した入居者への対応も含め、更に見守りや声かけを行っていくことを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の活性化のために本人の得意な事や趣味を生かして日々の食事作りや掃除、畑づくりなど一人ひとりにあった役割が持てるよう工夫されている。そのため、入居者も自分の役割を自覚し、意欲的に活動に参加されていた。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に外出計画をたて、外出するとともに入居者が希望した場合にはいつでも散歩や買い物など行けるよう職員体制を確保している。意識的に外出支援を行い、五感を刺激し、生活に張りがもてるよう取りくみを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を活用し、身体拘束について職員全体で考える機会をもち、日々のケアの中で実践されている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員が理解し、入居者がいつでも外出したいときに外出できるようにと玄関は開放されており、呼び鈴や見守りで工夫され、夜間のみ防犯上の理由で施錠されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に協力を得て、年2回の消防訓練に加え、毎月テーマを変えて職員全員が緊急時に即座に行動がとれるよう訓練が行われている。		火災に関しては日頃より訓練を実施し、緊急時には職員が対応できるよう工夫されているが地震等の他の災害については実施されていない。地域住民の協力も含め、今後災害対策を充実されることを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に栄養や水分摂取状況を確認、記録し職員間で共有されている。それをもとに病気が考えられる場合には医療へつなげたり、その他の理由の場合にはご本人がより摂取しやすいように個々の状態に合わせ、ケア変更を行い、必要量が確保できるように取り組まれている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種マニュアルを作るとともに職員全員が理解できるようミーティング等を通じて周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには観葉植物や絵などが飾られており、優しい雰囲気が入居者がゆったりと落ち着けるように工夫されている。むやみに音を出さず、入居者が静かに自分の時間が過ごせるように配慮されている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが好きなもの、自宅で使い慣れた家具や日用品を居室に持ち込み、ここが自分の部屋である、グループホームが自分の生活の場であるという意識が持てるよう配慮されている。それぞれの居室に生活の場としての居心地の良さが感じられた。		

 は、重点項目。